

わの会通信 Ver. 39

◆ 2019.7.30発行 発行元:NPO法人わの会 住所:府中市住吉町1-60-10 TEL/FAX:042-360-3626 ◆



新春のつどい



関谷農園



卒業生を送る会



AED講座



戸外リハビリ



暑中お見舞い申し上げます



いきなりの猛暑に皆さんお元気ですか？最近の学び「失敗学」より、「失敗の話はいつ聞いても身につまされる。ちょっと面白く、とても腹立たい。よそごとのうちは通り一遍のことしか考えないが、自分だったらどうするかを考えた途端に、背筋がぴんと伸びて真面目に考えてしまう。失敗の話とは不思議な力を持つものだ。大学の講義や会社の講演などでも、うまくゆく方法を話すと眠そうにしていた人たちが、まずくいった道筋を話した途端に目を輝かす」と。すべて運動体は、自主、民主、自活を目指す。そうでないと共倒れになる。りんりん、あいあい、ネットそれぞれの課題を明らかにしたい。

私はもっともっと仲間達を頼りたい。仲間のもっと良くしたい声を集める。「鐘はつきてによって音の大きさも音色も変わる」と言われます。真心を込めて呼びかけるときっと応えてくれると思います。みんなで頑張りましょう。（2019年6月19日、2019年度わの会総会での挨拶から） NPO法人わの会理事長 佐々木公一



特定非営利活動法人 **わの会**
府中市住吉町1-60-10
TEL: 042-360-3626
わの会HPIはこちら→



【5つの事業】

- ①府中自立支援ネットワークわの会(自立支援)
- ②デイサービスりんりん(地域密着型通所介護)
- ③重度訪問介護従業者養成研修講座(研修事業)
- ④ヘルパーステーションあいあい(訪問介護)
- ⑤わの会相談支援事業(相談事業)

■ 活動実績

内 容	開催数	延べ人数	内 容	開催数	延べ人数
生きがい活動 (コーラス、絵手紙教室など)	41	383	会員交流活動(総会 など)	17	257
外出訓練・機能訓練 (ミニデイなど)	27	440	相談活動(電話相談 など)	1149	1149
地域交流活動 (桜まつり、福祉まつりなど)	5	70	教育活動(研修など)	16	52



みんなの 声



「今回、わの会に参加していいのか不安がありました。でも、ここに来ていいのだと思えました。希薄になってしまった地域社会の中で、こんなふうに活動される方もいると知り、心温まる思いです」

(子育て語る会参加のBさん)

倒れるまでや
りたい。
(杉山さん)

夫の時から
の関わり。罪ほ
ろぼしがある。
(藤井さん)

いろいろ勉強になる。
「ありがとう」といわれ
る居場所。ストレス発散
の場。(大瀧さん)

やりたいことができる、やってみたいことがある。それは子供食堂です。
(片山さん)

つながっていること、自己が広げられる、前を向ける。
(野澤さん)

活動が楽しい。楽しいから続けられる。(湯田さん、高橋さん)

家に居るだけでは、引きこもってしまう。わの会で来年もお願いします。(下條さん)

7月から絵手紙教室に関わる。個人の良さ、すばらしさを引き出せる場にしたい。(竹内さん)

2019年度活動の計画



「困ること」への対応(障害者・高齢者)から会員が増えている。必要とするものを行うこと。いろいろなことができることにつながり、今のネットがある。

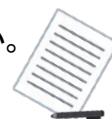


20人くらいの宿泊
を計画したい。

ミニデイなど大所帯に進化している行事: 食事の味・量、大勢で集まる楽しみ、調理は献立のリクエストがあるとよい。



総会の時などにアンケートをとって見たらどうか。



ツアーでは気遣い多い旅行も、わの会だと安心(障害を理解してくれる)。気軽に行ける。近場で食事とイベント(みかん狩りなど)を楽しみたい。

行事が楽しく
なっている。



外食会は参加者の希望(値段や価値観、年齢層)が異なる。



スケジュールは早
めに細かく。





2018年度の事業報告

1. 利用者増員

平成30年度より一日定員数を12名から18名に変更し、認知症対応型通所介護を利用されていた方々を問題なく受け入れることが出来た。しかし、その後施設入所、長期療養、死亡などの理由から利用者数が減少、新規利用者は増えたが減少した分を取り戻すことは出来ず目標としていた一日平均13名の実績には届かなかった。



▲日新小学校運動会観覧

2. 生活相談員、介護職員スキル向上を目指して

基本研修（身体拘束・虐待防止、接遇、プライバシー保護、認知症ケア、緊急時対応、非常災害、感染・食中毒、事故・ヒヤリハット、送迎）のほか、相談業務研修（生活相談員）を実施することが出来た。その他計画していた、身体介護についての研修は開催していないが、利用者ケースの話し合いの場で介助方法の確認を利用者別に行った。

3. 機能訓練・活動内容の充実を目指す



機能訓練として、可動域訓練（棒体操、ストレッチ体操など）、筋力トレーニング（ボール体操、筋力向上体操など）、歩行訓練（バランス体操、立ち上がり、立位保持訓練、戸外歩行など）のプログラムを実施することが出来たが、戸外歩行については利用者の数や状態に対して、介助者が足りないなどの理由から戸外に出られない日も多くなってきている。活動として、壁面飾り作り、カラオケ、お菓子作り、調理、脳トレ（クイズ、ゲーム、計算、クロスワードなど）、手工芸のプログラムを提供、実施した。上記のプログラムを提供した結果、前回より介護度が下がった利用者は31名中2名、26名は現状を維持し、残念ながら3名の利用者の介護度が上がった。

4. 地域との交流・協力の強化

地域交流に関しては、例年おこなっている小学校運動会参加、納涼祭、餅つき大会のほかに今年度より中学生職業体験受け入れ、小学生視覚障害体験授業への協力、地域交流菜々カフェへの協力、地域バザーへの参加など参加、協力、交流の場を増やすことが出来た。今年度も地域との交流への取り組みをおこなって行きたい

2019年度の事業計画

① 重点目標として第1に経営基盤の安定化を図ります。

- ア 平均利用者数の目標を13名とし、利用者増を目指す。
- イ 利用者と家族が満足できるサービスの提供に努める。
- ウ 満足度調査の実施、生活相談員が利用者宅を訪問し通所介護計画書の内容の説明と了承を確認、サービス実施状況の定期的報告と成果の確認。
- エ 居宅介護支援専門員と連携を密に図り、信頼を得るよう努める。通所介護計画書の送付、定期的なモニタリング報告、状況変化などを速やかに行う。





2 個々のニーズに添ったサービス提供

- ア 居宅介護計画書に基づきながら、利用者及び家族の意向と状況把握に努め、より良い在宅生活が継続できるよう計画づくりを図る
- イ 全ての職員が通所介護計画書作成に関わり、その計画に添ってサービスを提供し利用者一人ひとりが目標を達成し満足を得られるよう支援を行う
- ウ 常にサービスの質の向上を目指すため、全職員でサービスの評価、実践、改善に努める。



3 職員間の連携、チームワーク強化

- ア 全職員が報告、連絡、相談を常に行い、サービス向上に努める。
- イ 事故およびヒヤリハット危機管理の取り組みは、速やかに職員全体で取り組み改善を図る。



2018年度の事業報告

1. 利用者への満足度調査を実施

・利用者・利用者家族のご要望に沿うケアを一步進めるため、平成31年2月に満足度調査を実施。利用者44名対象のうち16名(本人記入 8名・家族記入 8名)からの回答あり。結果、具体的な要望は少なかったが、サービス提供責任者の訪問時に、再度ご意見を伺うことができました。



▲4月25日グループ意見交換&親睦会

- ・サービス提供責任者の定期訪問による利用者、家族への十分な聞き取りや、現状のサービス状況の把握、課題の解決に向けて、事例検討会議など行う事ができました。
- ・サービス提供責任者の情報収集やモニタリングの不十分さから、課題を未然に解決できなかったこともあり、年間利用時間数減少の要因の1つとして考えられた。

2. ヘルパー研修の実施

ヘルパー研修に関しては、実技の振り返りなどテーマに沿い、定期的に行うことが出来た。但し、時間や曜日等調整を行ったが、それでも参加者は少なく、ヘルパー全員の参加には至らなかった。

3. ヘルパーアンケートの実施

- ・平成31年2月にヘルパーアンケートを実施。51名中20名の回答ありました。
- ・アンケート結果に基づき更新面接を行い、家庭環境や自身の身体状況を踏まえシフト調整等を行い、働きやすい・職場作りを工夫し改善に努めていた。その反面、個別対応でないこともあり、ヘルパーの心身の変化や本心に気づけず、コミュニケーション不足を感じる点もありました。

2019年度の事業計画



年に1回の例検討会議

・介護保険利用者は、モニタリング月・障害利用者は誕生月での事例検討会議を徹底して行なう。



サービス責任者の増員

・サービス提供責任者の受け持ち人数や時間数の適正化を図るためにサービス提供責任者を増員する。



他事業・他職種との交流

・今年度は独自の研修だけではなく、外部研修への参加や、他事業所・他職種との交流を通し、情報交換等から、新たな人材確保の方法を学んでいきたい。



働きやすいシフトの見直し

・登録ヘルパーがさらに働きやすくするために、シフトの見直しや、連絡、連携を速やかに行う。



定期訪問でサービス状況の把握

・サービス提供責任者による定期訪問でのサービス状況の把握を十分にすることで、利用者・利用者家族の要望を的確に捉えられるようにする。いつも方針に掲げそれなりになっているが、今年は実質的に実りある状況を作り出したい。



人材育成

・今年度、重度訪問介護従業者養成研修・同行援護従業者養成研修が、ヘルパーステーションの事業へ移行となった。振り返りやヘルパーのスキルUP研修としての位置づけを明確にし、様々なニーズに沿ったサービスが提供できるよう人材育成に努めていく。

利用者さんの声



利用者Sさんの娘さんより

(93才女性 主な症状:視覚障害、認知症)

視覚障害の母は、昔から歌が大好き。府中自立支援ネットワークわの会のコーラス教室に母と10年くらい前に参加したのがご縁でした。そして、母の介護が一人では難しくなり、3年前、介護予防と同行援護であいあいさんのサービスをお願いすることにしました。

サービス責任者高倉さんと初めて会ったとき、「コーラス教室でお見かけしてことができました」と言われ、とても安心したのを覚えています。そして、2年前転倒により入院、認知症を併発し、その間もあいあいさんにお世話になりました。退院後（1年前）、元気な時、寝てばか

りの時と心身の状態の変化が激しくなっても、母の状態をよく把握してあいあいさんは、うまく対応して下さり、そのケアには感謝では言い尽くせないほどです。

以前介護事業所の下調べした時、同行援護と介護保険を扱っている所はほとんどなく、もしあいあいさんでなかったら、2つの事業所になってもっとてんてこ舞いだったかも…と思ったりします。また、あいあいさんだけでなく、わの会の他の事業所に行っても、馴染みのスタッフさんがいて本当に安心しています。これからもいろいろなことがあると思いますが、引き続きよろしくお願い致します。



5年目の相談支援

平成26年12月からスタートしたわの会相談支援は5年目を迎え、現在69名の福祉サービス計画の作成やモニタリングを行っています。ひと月あたりの平均件数は23件となりました。

わの会相談支援は福祉サービスを利用する際に必要な計画の作成と、その計画がうまく行っているかを確認するモニタリングを行っています。計画の作成にあたっては、ご本人のお宅に伺い聞き取り調査を行い、引きようなサービスの担当者や医療分野、ケースワーカーとの会議を調整します。モニタリングにおいては、実際の現場に出向いてご本人やサービス担当責任者などに確認をしていきますので、デスクワークより外に出ることが多いと実感しています。

ヘルパーの不足など、社会資源はまだまだ足

りませんが、福祉は以前に比べ選択肢が増えました。一方で、選ぶことに

ついて当事者がその責任を負うことが求められます。そこを軽減することが相談支援の仕事です。現場に出て本人はじめ当事者の声に耳を傾けていると、同じ物はどれ一つとして無く、「その人にあった支援」の提供に計画相談は重要な位置にあると感じますし、相談員は常に情報を更新し「現在のその人がもとめるもの」に対応する力が必要だと思っています。

わの会相談支援は一般的な福祉の相談なども受けております。相談に来た方が少しでも安心できる「ことわらない相談」を目指しています。



NPO法人わの会の取り組み



2018年度の報告

通所デイサービスが大きくマイナスになっている。原因は認知症対応デイを一般デイに切り替えた事による収入減が一番に挙げられる。さらにスタッフの退職も重なり、いくつもの困難をかかえながらもスタッフ一同それぞれの力は存分に発揮されてきたが、プラスに転じる事はできなかった。

ネットワークわの会の活動も参加者が増え、プログラムも会員の要望に沿って多面的に行われているが、まだ赤字解消できるほどの自力を持てていない。

いずれの事業も困難の多くが管理者の長時間

労働によって底支えになっている現状がある。常勤者のひとりひとりがそれぞれの役割を全うできるよう協力・共同のチームワーク作りが法人全体に求められている。

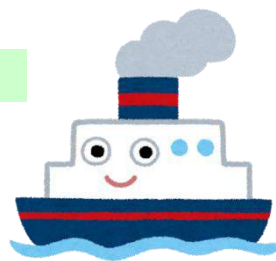


▲5月19日わの会ネットワーク会員総会



2018年度の事業活動をふまえて2019年度の課題

- ① すべての事業の赤字解消に努める。
 - ・りんりんは利用者の増員と送迎のための添乗体制の確立をはかる。
 - ・ネットは利用料の在り方を明確にする。また、会員拡大に努める。
 - ・研修事業は受講生の増員をはかる。
- ② 法人全体のサポーターズ組織の創設
- ③ レベルアップ・スキルアップのための研修を業務として位置付ける。
- ④ 処遇改善の見直しをすすめる。
- ⑤ それぞれの業務の活性化をはかるために、異動希望をとり検討する。
- ⑥ 事業の維持存続と安全な運営のための見直しを行う。
- ⑦ 法令遵守に努める。
- ⑧ 広報活動の在り方の見直しをすすめる。



今、介護保険は

7月22日参議院選挙のよく日、安部首相は「社会保障全般にわたる改革を進めて行く、今後具体的な論争を加速していく。」と表明したそうです。

◆◇利用料の引き上げか…◇◆

- ① 現在要支援1.2の人は市が運営する「総合事業」によって実施されています。国の一定の基準で行うのではなく「その市の介護の考え方によってサービスが違ってきています」
国はさらに要介護1.2の人の生活援助サービスも総合事業に移そうとしています。20年度中に実行するというもの。
- ② 利用料を原則1割から2割に引き上げる。
- ③ ケアプラン作成の有料化
このようなことが実施されることになればさらに介護難民や家族介護の負担増、重症化などに繋がりがねません。

◆◇〈これまでも国の計画を

押し返してきたこともある〉◇◆

杖やベッド、車いすなど福祉用具を原則自己負担にする計画を22万人もの署名を国に提出し現行通りを守ることが出来た。

要介護1.2の生活援助についてもいろいろな条件がついたものの保険外にすることは見送られています。

この秋の国の動きから目を離さずにこれ以上「介護保険あって、介護なし」の状況を作らせないように他事業所とも情報交換し、学びあっていきましょう。

NPO法人理事会事務局長 佐々木節子



見てほしい！ 知ってほしい！ いっしょに考えて

わの会広報は、以下の機関紙を発行しています。

『わの会通信』（年3回 300部 Webわの会でも閲覧可）

『りんりんりん』（年6回 60部）

『みんなで行こう』（年10回 150部 自立支援ネットワーク会員向）

『あいあい通信』（毎月 65部 登録ヘルパー向）



上記のQRコード又は
府中市わの会で検索

各紙面でも、事業の活動に携わっている皆様と交流をし、地域に貢献していきたいと思っておりますのでご意見、ご要望、ご感想などの記事のご提供よろしくお願い致します。

わの会りんりんに入所して

元利用者家族 松原 三津枝



夫が「この頃臭いがしない」というので、医者で薬を貰い飲んだが、治らない。病気に気づきはじめてきっかけには、そのようなことがありました。

徐々に病気が進み、施設を探すが、なかなか入れていただけない。少し行っただけで断られた所も2件ほどありました。5か所目でやっとりんりに巡り合うことが出来たのです。津田さん(りんりん管理者)に、話を黙って聞いて頂いた。寂しそうな顔をしていたのかもしれない、すがりうな思いをとめどなく、たどたどしく話した覚えがあります。聴いて頂き嬉しかったです。状態が悪くなるにつれ、二人でもがいていた数年間は、夫は外出すればゴミを集めたり、街中で「すこし避けよう」と言えば怒って、私を追いかけて殴ろうとしたり、一晩帰らず(路がわからなくなり)二晩目にやっと警察から連絡があったり、夏に窓を開けておくと防音装置をして欲しいと苦情を言われたりしたっけ。私は心の病にかかったようだったと思います。

今想うと介護の中である後悔があります。りんりに来る前に行っていた施設で、夫がその建物に入らないと言う形でサインを出してしたにも関わらず通わせてしまったということでした。

私は、先が見えない辛さに余裕がなくなっていました。部屋にはいらずうどうしていたかというところ近くの墓地を延々と水も飲まず、7月の暑いさ中を歩き通す日々が続く、気を失うような形で倒れたのです。脳梗塞でした。そして言葉を失ったのです。なぜデイをやめさせてあげなかったんだろう。自分の苦しさしか考えられない私だったのです。「ごめんね」今ならその自分が見えるけど、その姿さえ見えていなかった。多分精神状態が危うかったのかもしれない。本当にごめんなさい。

りんりんでは週4日通うようになりました。職員の皆さんに少しでも夫にとって自分の能力を使えるようにいつも考えていただいています。時には、職員の澤田さんがケアの方法はこれで良いかとレポートを持参して、順天堂の新井先生に聞きにいかけてくださり、良い評価もいただきとても感謝しています。まずこんな方いませんよね。

ありがとうございます。心の暖かいケア者に囲まれ、私の病が治ったようです。私と夫に関わる全ての方々に御礼を申し上げます。「わ」の会の節目に感謝を述べさせていただき御縁ありがとうございます。皆様のご活躍をお祈りいたします。

わの会の思い出

元自立支援ネットワークわの会スタッフ
掘 良子



私がわの会という思い出するのは、会員総会や新春の集いの最後に歌われた「故郷」です。自分らしくのびのびと歌えるあたたかい雰囲気がありました。

自分よりも年上の方が多かったので、会場から聞こえてくる歌声に、人生経験の厚みを感じておりました。2年前まで府中に住んでおりましたが、現在は実家のある静岡県に暮らしています。

わの会のように、活動のたびの送迎や介護など細かなサポートがうけられる場所は、私の住んでいる所では今のところ見つけられません。

私の府中での生活は、わの会に関わる多くの人に支えられていました。大切にいただきました。ありがとうございます。今でも折に触れて思い出し、力にしています。



*わの会20周年記念の際にご投稿頂いたものをシリーズで掲載しております。